



ビオトープ・サロン 身近な自然が支える小さな命

寄稿：榎本幸実（徳島県自然環境協力員）

【生きものの多くは複数のビオトープが必要・・・移動可能な適切な配置も必要】

野生生物の多くは複数のビオトープが必要です。水場、採餌場、棲み処、活動場、これらの適切な配置が必要で、どれが欠けても生存することはできません。特に、両生類は読んで字のごとく、水辺と草地や林の両方のビオトープが不可欠です。カスミサンショウウオは1月から3月、北方系と言われるアカガエルは2月から3月が産卵期です。里山近くの水辺をそっと覗いてみましょう、繁殖活動や卵が見つかるかもしれません。見つけたら、今の環境を大切に守りましょう。ここで紹介した写真は、徳島県自然環境協力員の研修会の様子です。研修会に限らず、「徳島県立佐那河内いきものふれあいの里」では、四季を通して様々な観察会が開催されています。また、自然環境教育の出前講座に出向もしています。(問合せ先：〒771-4102 徳島県名東郡佐那河内村上字大川原 5-8 088-679-2238)



休耕田や水田では多数の卵のうが確認できました

【湿田の産卵場：左側の写真(カスミサンショウウオ)】

里山麓の湿田地帯で、休耕田でも水田でも卵のうがたくさん確認できました。湿田の排水事業による乾田化や宅地開発によるビオトープの消失をはじめ、殻を持たないが故に化学物質や紫外線の直撃を受けやすいなど、両生類の生息域や個体数の減少が危ぶまれています。

【沢筋の産卵場：右側の写真(カスミサンショウウオ)】

沢筋の産卵場は、落ち葉のたまった淀みでした。出水があると淀みから押し流され、孵化することなく日干しになる卵のうも少なくないようです。安全な産卵場が少なくなっているせいかもしれません。



沢筋の淀みを探る指導員と見守る研修者

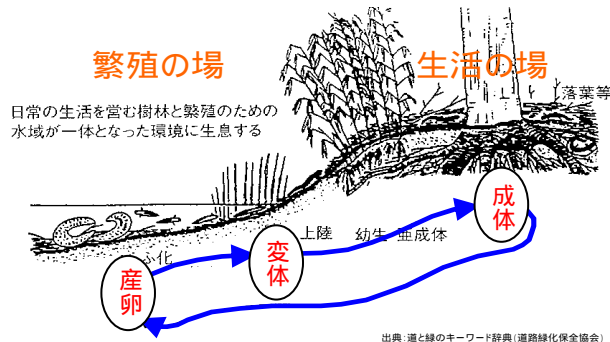


水草に絡めて生みつけられたバナナ型の卵のう



メスを待ち構えるオスと卵のうが見つかりました

小型サンショウウオの生活史



**ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!**

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより  
**無断転載禁止**：本紙は財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。 記者：編集担当

**【ビオトープ論：正答は次号で紹介】**

問：ビオトープの定義に関する次の記述のうち、適切なものはどれか選びなさい。

1. ビオトープとは、トンボやホタルなど小動物の生息空間を意味する概念である。
2. ビオトープとは、主として自然環境を還元することである。
3. 広大な干潟をビオトープというのは適さない。
4. 植生が貧弱な砂丘も、ビオトープのタイプといえる。
5. 雑木林や土水路は、農業生産活動の中で形成、維持されてきた二次的自然環境なので、ビオトープとはいえない。

前号の正答「2」

誤っているのは「2. 個々の生態系は、それぞれに独立した系として成り立っている閉鎖的な系であり、他の生態系の影響を受けることは無い。」です。

生態系は、それぞれに独立した系として成立していますが、相互に影響し合いながら共存しています。その意味でも、生態系の基盤を成すビオトープをネットワークすることが重要です。

**最近の受験者は、環境NPO構成員、国・地方公務員、外郭団体や地方自治体職員、企業退職者が増加傾向です。**

**ビオトープ・ナビ 今月の“たからもの”**

記者：編集担当

**【みい~つけた!】**



熊本市内の公園にて、残念ながら種は特定できず。

「みてみてー。なんかあるよー(息子2歳)」一生懸命、木を見上げ指差す先に目をやると「セミ・・・？」なんと、セミの抜け殻がしっかり木の幹にしがみついているではありませんか。こんな季節にセミの抜け殻が見られるとは思いませんでした。抜け殻になってもまだしがみ続けるその姿に、セミの短い一生が故の力強さを感じました。

では、セミの一生とは？地中7年(幼虫期)、地上7日(成虫期)と、なんとなく聞いたことがあるのではないのでしょうか？しかし、実際のところ十分に解明されておらず、はっきりしていないそうです。短いと言われる成虫期も、30日以上生きているという観察結果もあるようですので、他の昆虫と比べて特別寿命が短いというわけでもなさそうです。

ところで、セミの幼虫や羽化を見たことはありますか？今年ちょっと違った観察も面白いかもしれません。木の根元に開いた小さな穴(大きな穴は既に幼虫が出た跡かも?)に注目してください。多くは7月から9月上旬、夕方、長かった土の中のくらしを終え、幼虫が顔を出すかもしれません。でも、見つけた時はそっと見守るだけにしておいて下さいね。

セミの抜け殻を見つけ、目を輝かせる。そんな気持ちを忘れずにいたいものです。皆さんも、散歩途中など生き物やその痕跡、季節の移り変わりなどを見つけたら、デジカメでパシャ!、携帯カメラでパシャ!是非、コメントと一緒に寄せ下さい。

**ビオトープ・サロン 書籍紹介コーナー**

記者：河野登子(会員)

ちょっと“むし”が苦手というお母さん、お父さんへ。そして、“むし”に興味津々なお子さんへ。親子で楽しめる絵本の紹介です。

親子のコミュニケーションに、また、環境教育の導入本として利用してみたいかでしょうか？ 野外やお家で“むし”を見つけたら、逃げる前にちょっとだけ観察してみませんか。

**【こんちゅうってなんだ?】**

著者：アノ・ロウカ(原作)/ステーブ・ジェンクス(絵)/阿部健一(訳)  
 発行：福音館書店 / 21×26cm・32頁 / 定価 1,365円(税込み)

内容：このムシは昆虫だろうか？ コーヅルによる美しい生き物を見ながら、昆虫の定義、共通点、相違点など分類のてがかりになる特徴をわかりやすく紹介しています。

**【かけるかな? むし ムシ 昆虫】**

著者：しもだともみ  
 発行：PHP 研究所 / 24×24cm・32頁 / 定価 1,260円(税別)

内容：野山には、私たちにとって身近な存在である「むし(昆虫)」をはじめ、色々な生き物がひしめきあっています。「むし(昆虫)」の簡単なお絵かきから、体の特徴の違いに気づき、楽しみながら生き物への興味が広がっていくことでしょう。「むし(昆虫)」は苦手という人も、あらためて、みつめなおしてみると、意外な発見があるはずですよ。

**編集後記**

数十年ぶりに水を張った田んぼに入り、子ども以上にハイテンションな私・・・。その2週間ぐらいあと、同じ田んぼをのぞくと、オタマジャクシが沢山かえり、メダカの学校ならぬオタマジャクシの幼稚園になっていました。ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! ニュースを読んだご感想やご寄稿はメールアドレスまで。また、過去のニュースはホームページからもご覧いただけます。 編集：河野登子

【E-mail : tokotoko.utan@gmail.com URL : http://biotopetokushima.yu-yake.com】